

日光明峰高等学校の取組

1 活動の概要

<実施対象者>

全校生徒対象として実施した。

<目標>

- ・ オリンピック・パラリンピックへの教育を通じて、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際・異文化理解などの資質・能力を養い、国際的な視野をもつ。
- ・ オリンピアンからの講演から、オリンピアンの生き方を学び、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。

2 主な取組内容

●各教科等における取組

☆ 2 学年 体育 (体育理論)

- ・ オリンピックの歴史、オリンピズム

☆ スポーツ健康コース 3 学年 (スポーツ概論)

- ・ オリンピックの歴史、ドーピングとスポーツ
- ・ 障害者スポーツについて

☆ 1 学年 コミュニケーション英語Ⅰ (英語会話)

- ・ オリンピックの歴史、意義

☆ 人文国際コース 2 学年 (英会話)

3 学年 (異文化理解)

- ・ 国際交流、観光案内

☆ 2 学年 日光学

- ・ 地域理解、伝統文化理解

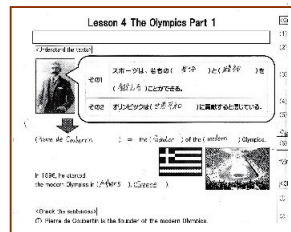
●各行事における取組

☆ オリンピアンによる講演会 (佐藤寿治氏: 体操競技)

- ・ 「経験は力なり」～体操競技、オリンピックを通じて～をテーマに、講演をいただいた。



[各教科の授業の様子]



ワークシートを活用して
理解を深めていきました!



[講演会の様子]

3 成果

- ・ 英語や体育の授業では、オリンピックの歴史や意義について話し合い、討論や発表を行い、オリンピックへの理解を深めることができた。また、英語では、英語指導助手 (ALT) を活用し、他国の文化に触れるとともに、外国人観光客との国際交流学習や日光の観光案内を通じて、異文化への理解の促進と語学力の向上を図ることができた。日光学では、フィールドワークを通して地域や伝統文化についての理解を深めた。
- ・ オリンピアンからの講演では、オリンピックへの興味・関心を高めることができ、オリンピアンの生き方「当たり前のことを当たり前にする」、「失敗から得られること」、「自らの行動を起こす」、「総合的な人間力」などの話を通して、今後の自分自身の在り方について考えることができた。さらに、「言葉が分からなくても伝わる」、「他の選手との交流」などの話から、スポーツを通じた国際交流について学び、異文化理解について興味をもつとともに、「する」スポーツだけでなく、「みる」、「支える」スポーツ文化についての関わり方を学ぶことができた。競技経験の話から、部活動に加入している生徒は、自身の部活動との相違点を見付けたり、競技における知見を広めたりすることができた。さらに、オリンピック時の映像とメダルを実際に見せていただいたことにより、自身の競技に対する向き合い方を見つめ直すことができた。
- ・ 年間を通して、授業の中にオリンピック・パラリンピックに関する情報を取り入れるようにしたり、オリンピアンからの講演会の後には、振り返りをする場面を設けたりしたことで、よりスポーツへの意義や価値について考えが深まった。

4 課題

- ・ 日光学では、地域文化について理解を図ることができたが、オリンピック・パラリンピックとの関連付けを高める必要があった。
- ・ オリンピック・パラリンピックに関する資料を有効活用し、継続した指導が必要である。
- ・ 障害者スポーツについても興味・関心を高めさせたい。

小山南高等学校の取組

1 活動の概要

<実施対象者>

スポーツ科1年生（80名）を中心に、学校全体で実施した。

<目 標>

- ・ 学校の教育活動全体を通してオリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際、異文化理解などの資質・能力を養い、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。
- ・ 授業、学校行事、地域のイベント等を通して、様々な視点からオリンピック、パラリンピックの理念や学びに触れることで、スポーツに対する興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心の育成を図る。

2 主な取組内容

● 各教科等における取組

☆ スポーツ総合演習

- ・ オリンピック・パラリンピックの歴史、意義、現状と課題について、講義形式、グループワークで学んだ。

☆ スポーツⅣ

- ・ 「東京五輪音頭 2020」の習得を目指した授業を展開した。

☆ スポーツⅤ

- ・ 山形蔵王スキー場で実施しているスキー実習にて、世界選手権に出場し、アジア大会でも優勝された「清澤恵美子氏」による講話と雪上におけるデモンストレーションと技術指導を実施した。



[清澤恵美子氏の講話の様子]

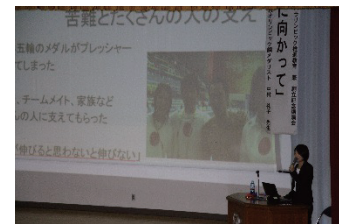
● 各行事における取組

☆ 体育祭

- ・ 「東京五輪音頭 2020」集団演舞を行った。

☆ 創立記念講演会

- ・ アテネ・北京オリンピック銅メダリスト「中村礼子氏」を講師として招聘し、全校生徒対象に講演会を実施した。中村氏がいかに水泳競技に取り組み2回のオリンピックで銅メダルを獲得したか、その過程における人との出会いや転機、葛藤などの体験談とそれらを通して得たものについて話を聞いた。



[中村礼子氏の講演会の様子]

☆ スポーツ学校

- ・ 地域の小・中学生とのスポーツ交流により自己のスポーツ観の再認識を図るとともに、小・中学生にスポーツの楽しさを体験させることを目的として、カヌー、ウエイトリフティング、サッカー、バスケットボール、バレーボールで実施した。

☆ クリーンアップ大作戦

- ・ 地域の老人クラブの協力を得ながら、学校周辺や最寄り駅の清掃活動を行った。

● 地域における取組

☆ スポーツボランティア

- ・ 地域の老人クラブが開催している「グラウンドゴルフ大会」の運営補助、隣接する間々田東小学校の運動会や持久走大会の運営補助などを行った。

☆ 社会福祉施設との交流

- ・ 音楽部、ボランティア部が、地域の老人施設や障害者支援施設での訪問演奏会を実施した。

3 成 果

- ・ オリンピック・パラリンピックに関する知識や、参加国の推移を学び、過去の出場選手の体験や関連エピソードなどから、スポーツの楽しさやフェアプレイの精神を学ぶと同時に、オリンピックが文化や国、民族、宗教の違いを越えて互いを理解し合い、友好を深めるツールになっていること、パラリンピックが障害者への理解を促し、共生社会の創出に貢献していることを理解した。
- ・ ボランティア活動や社会福祉施設の訪問活動により、ボランティアマインドが醸成され、障害者への理解が促進されるとともに自尊感情も高めることができた。
- ・ 直接オリンピックから経験談などを聴くことにより、オリンピックの素晴らしさや、目標に向けて努力することの価値、努力したことは、その後の人生を豊かにすることを学んだ。
- ・ オリンピアン競技力に直接ふれることにより、スポーツへの興味・関心が大きく高まった。

4 課 題

- ・ 限られた授業日数、授業時間の中で、保健体育科以外の教科に活動を広げることは難しかった。
- ・ スポーツ科専門体育の授業において新規の取組を行ったが、各授業ともシラバスに従い、各時期に取り組むべきことがあるため、授業進度に影響が出た。

各実践校での取組の様子

《各校では、様々な取組を実践してきました。取組の一部を紹介します！》

◆◆◆ 授業や行事等における取組 ◆◆◆



体育・保健体育科での取組



〇〇小オリンピック



ボッチャ体験



「特別の教科 道徳」の授業

◆◆◆ オリンピアン・パラリンピアン等との交流会及び講話 ◆◆◆



ストラックアウト挑戦



3×3バスケットボール



車椅子体験



投げ方指導



マラソン給水体験



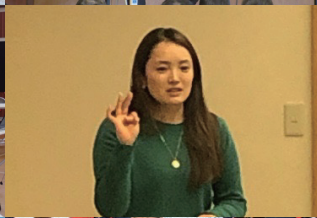
野球の実技指導



ハードリング指導



義足に触れて



講話では、御自身の経験をもとに、夢をもつ大切さや、何事にも諦めずに取り組むこと、また困難を乗り越えることの重要性などを分かりやすくお話いただきました。交流会等では、児童生徒と一緒に走ったり投げたり、車椅子等の操作の仕方も教えていただきました。

推進委員会

本事業を推進するために、栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進委員会を年2回開催しました。

○推進委員

宇都宮大学教育学部教授（委員長）

日光明峰高等学校教頭／小山南高等学校教頭

栃木市教育委員会／那須塩原市教育委員会

佐野市教育委員会／下都賀教育事務所

那須教育事務所／安足教育事務所

栃木県総合政策部総合政策課

栃木県教育委員会事務局総務課

栃木県教育委員会事務局スポーツ振興課

事務局：栃木県教育委員会事務局学校教育課

第1回推進委員会〔平成30(2018)年7月10日(火) 栃木県庁〕

- ・事業概要説明
- ・実践自治体、実践校における実施計画についての検討・協議

第2回推進委員会〔平成31(2019)年1月18日(金) 栃木県庁〕

- ・実践した内容や方法等の検証及び、改善策等の検討・協議
- ・実践、成果を普及する方法等の検討・協議

主な成果と課題

今年度実施した本事業では、主に次のような成果や課題が挙げられました。県教育委員会としては、今回の成果等について県内に広く周知するとともに、関係機関や有識者等と連携を図り、オリンピック・パラリンピック教育の充実に努めていきます。

〈成果〉

各校のねらいに応じた取組により、スポーツやオリンピック・パラリンピックへの意義を理解するとともに、興味・関心を高めることができ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けての機運醸成が図られた。

〈課題〉

各学校において効果的にオリンピック・パラリンピック教育を推進するために、各教科等との関連を図り、適切に指導時間を確保するなど、教職員の意識の向上や学校教育全体を見通した実践への計画が必要となる。

今後のオリンピック・パラリンピック教育に向けて

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への興味・関心を高めるとともに、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において、オリンピック・パラリンピック教育を推進していきます。

オリンピック・パラリンピック そのものについての学び

オリンピック・パラリンピックの歴史や競技種目、アスリートのパフォーマンスや努力の素晴らしさ、オリンピック精神等についての理解を深めることや、選手の体験・エピソードを聞き、大会を支える仕組み等について学ぶ。

オリンピック・パラリンピック を通じた学び

オリンピック・パラリンピックを契機として、チャレンジ精神や努力を尊ぶ態度、ルールの尊重やフェアプレーの精神等のスポーツの価値について学ぶ。また、多様性を認め、共生社会の形成を図ることや、異文化に対する理解を深め、おもてなしの心や公共心・道徳心を涵養することを通じて、平和な社会の実現に貢献する態度を育成する。

各教科等の取組（例）

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| ☆ 社 会 科 | オリンピック・パラリンピックの歴史を知り、大会の価値を知る。 |
| ☆ 音 楽 科 | 過去の大会の開会式や表彰式における各国の国歌を鑑賞し、音楽に親しむ。 |
| ☆ 外 国 語 | 各国の良さや特徴を伝える実践を通じて、外国語に対する興味・関心を育てる。 |
| ☆ 体育・保健体育 | オリンピック・パラリンピックの種目に挑戦し、理解を深める。 |
| ☆ 特別の教科 道徳 | 障害者のスポーツへの参加や人種差別について考える。 |
| ☆ 学 級 活 動 | 夢を持つことの大切さ、諦めずに努力することの大切さなどに気付く。 |
| ☆ 学 校 行 事 | 運動会にオリンピック・パラリンピックに関する新種目を取り入れる。 |

普段の教育活動に、オリンピック・パラリンピックの要素を含めることや、各学校・地域における教育資源の活用が考えられます。各学校の特色を生かし、幅広くオリンピック・パラリンピック教育を展開していきましょう。